

大学名

高知大学農林海洋科学部

第65号 特集テーマ「気候変動対策
—地球とわれわれの未来のために—」

表題

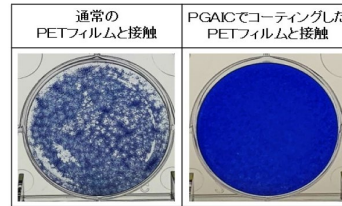
地方発！気候変動から身近な生活・社会を守る研究の取組紹介

取組の内容

高知大学は、「**Super Regional University (SRU)**」を標榜し、「地域を支え、地域を変えることができる大学」を目指して、地方創生に貢献しています。なかでも農林海洋科学部は、高知県内の多様な自然環境や地域社会をフィールドに、一次産業や地域の発展に役立つ様々な教育研究活動を実施しています。その中から、気候変動から身近な生活・社会を守る4つの研究についてご紹介します。

(1) 納豆のネバネバ+うがい薬=抗菌・抗ウイルスコーティング剤

超広域感染阻止能を持つバイオ超分子コーティングを開発しました。表面に塗るだけで、新型コロナウイルスを減少させ、インフルエンザ、大腸菌、カビなどの増殖も防ぐ効果があります。(芦内誠教授)



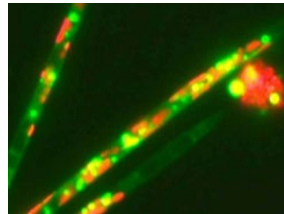
(2) 大豊町でのマイクロ水力利用による「ゼロカーボンシティ」への貢献

マイクロ水力発電で作った電力を街路灯や公民館等、公共の施設設備に活用し、限界集落を「賑わいと笑顔溢れる町」にするため挑戦しています。(佐藤周之教授)



(3) 海産微細藻類を用いたバイオ燃料生産の基盤技術開発

海産微細藻類に注目し、地球温暖化の原因となる二酸化炭素から燃料や有用物質を生産するため、遺伝子改良に関わる技術開発を行っています。(足立真佐雄教授)



(4) インスタント化技術により哺乳動物の遺伝資源を安全安心に保存する

食品や医薬品の保存に利用されるフリーズドライ技術を応用して、希少な和牛である土佐あかうしをモデルに、哺乳動物の遺伝資源(精子、体細胞)を保存する技術を開発しています。(郡七海助教、松川和嗣准教授)



期待できる成果

カーボンニュートラルや再生可能エネルギーに直接関わる研究や、気候変動によって変化する生活、社会を支える研究に Super Regional Universityとして総合的に取り組むことで、地域、さらには国際社会をより良くすることが期待されます。

参考URL: 高知大学SDGsAction <https://www.kochi-u.ac.jp/SDGs/index.html>